2026年3月2日

事業所防災リーダー通信2025 Vol.23

事業所防災リーダーのみなさまへ、防災知識や防災に関するお知らせ等を定期的に発信します。

正しい情報が、命を守る！

2011年に起きた東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）。
津波から逃げ遅れてしまった理由の一つに、「50年前に発生したチリ地震の津波」がありました。
その当時を覚えている人が「チリ地震の津波では大丈夫だった場所」に避難し、
それを超える高さの津波が押し寄せ、逃げ遅れてしまったケースがありました。

災害発生時に安心と安全を守り、適切に行動するためには、正しい情報が不可欠です。
正しい情報を、素早く収集する方法を考えておきましょう。

POINT

どこで・誰から・どんな情報を収集するか、決めておきましょう

目的に応じて、必要となる情報や情報元を想定しておきましょう。

【例1】

災害に関する情報を
幅広く知りたい

「事業所防災リーダー」では災害時に、メールやLINEで災害に関する情報をお届けしています。災害時の情報収集にも、ぜひご活用ください。

【例2】

事業再開・継続のために
必要な情報を知りたい

事業の再開や継続のためには、取引先や運送業者の状況を把握しておく必要があります。
災害に備え、お互いに情報をどのように共有し合うか決めておきましょう。

災害時は情報が錯綜する傾向にあります。「ホワイトボードで情報を集約化する」など、正確な情報を、分かりやすい形で共有することも重要です。

災害時の情報収集で気を付けるべき点を知っておきましょう

災害時に、SNSなどにおけるデマの発信や拡散が問題となっています。
できるだけ、公的な機関などの**「信頼できる発信元★」**から情報を取得するようにしましょう。
「シェア」や「転送」によって、自身が誤った情報を拡散する側にならないよう心がけることも重要です。

※出典元「東京事業所防災実践マニュアル」P86～P89 「2.発災時の情報収集を行うべし」より

★災害情報の入手先例
・東京都防災マップ　・東京都防災アプリ
・東京都防災ホームページ 防災関連リンク集　・東京都防災X
※その他、区市町村の防災アプリなどもご活用ください。

◀東京事業所防災実践マニュアルはこちら

東京都からのお知らせ

東京都では、多くの事業所からの防災リーダーの登録を募集しています。防災リーダーは、1企業や1団体1名ではなく事業所（支社、営業所など）ごと、また、1団体に複数名も登録できます。ぜひとも、この機会に多くの方にご登録いただき防災リーダー同士の結束を強めていきませんか。右記のQRコードを候補者の方にご案内ください。

https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/kitaku_portal/1000048/1021045/index.html